

第3章 研究のまとめと今後の課題

本研究の成果目標に対する研究成果及び成果の活用方針を、表 3-1 に示す。

本研究は、水害・土砂災害の防止・軽減による安全な社会の実現に向けて、有効なシステムや資料・知見等を提供しており、その社会的意義は大きく、各種の研究成果は学術的・技術的に意義を持つものである。今後は、これらの成果を更なる検討に活用するほか、一部の成果については実務への試験的導入を目指すこととする。

表 3-1 研究の成果目標に対する研究成果及び成果の活用方針

研究の成果目標	研究成果	研究成果の活用及び活用方針 (施策への反映・効果等)	
次世代水管理技術に関する研究	①予測降水量を活用した洪水予警報に関する技術開発	予測雨量の不確実性を考慮した確率論的洪水予測システムを開発した。	降雨予測の不確実さを洪水予測結果に反映させることで、洪水時の警戒・避難の空振りや見逃しを軽減することができる。
	②予測降水量を活用した土砂災害警戒・避難に関する技術開発	雨水流出現象及び土砂生産・流出現象に関するモデルを自由に組み合わせることが可能な統合型土砂災害予測モデルを提案した。	既存の観測データを適用することによって更に改良し、土砂災害予測手法に活用するための検討を行う
	③予測降水量を活用したダム貯水池の効率的運用に関する技術開発	気象庁の降水量予測情報の精度を評価し、ダム貯水池運用への適用性についての知見を得た。	実用精度を有している時間内でのダム流入量予測をダム管理実務に活用していくため、今回開発したリアルタイム流入量予測システムを全国のいくつかの現地事務所に導入する。
		ダム貯水池における新たなリアルタイム流入量予測モデルを開発した。	
④予測降水量を活用したダム貯水池水質の効率的な管理に関する技術開発	気象庁の降水量予測情報を用いたダム貯水池の効率的な水質管理方法を検討し、水質管理への適用性についての知見を得た。	治水・利水のリスクを考慮した効率的な貯水池運用手法の実践に向けた検討に活用される。	
海外の水問題を解決するための国際貢献	水管理技術に関する海外との情報交換・提供	第2回アジア太平洋地域水文水資源国際会議で特別セッションを主催し、アジアモンスーン地域の6ヶ国の専門家と各国の水問題及びそれらへの取り組みについて情報交換を実施した。	会議を通じて構築した各国専門家とのネットワークを活用し、アジアモンスーン地域の水問題解決に向けた情報交換を継続していく。